

## 豊橋市指定文化財指定理由書

指定名称 吉田城址 よしだじょうし  
指定区分 史跡  
員 数 73370.92㎡  
時 期 戦国時代～江戸時代  
所 有 者 財務省、国土交通省、法務省、豊橋市  
所 在 地 豊橋市今橋町3-1ほか  
指定理由

吉田城は、近世の文献によれば永正2年（1505）に牧野古白<sup>まきのこはく</sup>が築いた今橋城を始まりとするが、実際には明応年間（1492～1501）には牧野氏が今橋を実質的に支配しており、このころすでに今橋城は存在したと考えられる。今橋は、堯孝<sup>ぎょうこう</sup>の『覧富士記』（15世紀前半）に現れるように、築城前から街道の宿であり、都市的な場として栄えたところであった。その後、牧野氏と渥美半島の田原を拠点とする戸田氏とが争奪戦を繰り返す。駿河・遠江の戦国大名である今川氏の支配を受け、この間に今橋城は吉田城と名前を変えている。さらに西三河の松平家康が東三河を制圧すると、重臣の酒井忠次を城主に置き、徳川家康の関東移封後は、池田輝政（在城中は照政）が石高15万2千石の城主となり、吉田城を石垣や大規模な土塁、堀を備えた近世城郭として整備した。そして江戸時代には竹谷松平氏、深溝松平氏、水野氏、小笠原氏、久世氏、牧野氏、本庄松平氏、大河内松平氏などの譜代大名が、石高3万石から8万石で城主を務めた。

現存する遺構は近世吉田城のものであり、基本的な構造は池田輝政による整備の姿と考えられる。ただし、深溝松平氏による本丸御殿の建設と本丸の再整備、小笠原氏の総堀への通水など、近世にたびたび改修や整備が進められた。また、発掘調査からは戦国時代の遺構が確認され、戦国時代を通じて城域の拡大や整備が進められてきたこと、今橋城や酒井忠次時代の吉田城は想定以上に規模が大きかったことなどが明らかになった。

近世吉田城の構造は、本丸を中心に二の丸と三の丸が取り囲み、さらにその周囲に藩士の屋敷地である武家屋敷地を設け、最も外側を総堀で囲むものである。比較的単純な縄張りと言えるが、近世の城絵図から、内部は建物や塀により複数の枡形<sup>ますがた</sup>や通路の折れを設けるなど、防御の強化を意識した複雑な構造をとっていたことが判明している。また城域は東西1400m、南北700m、総面積は約84万㎡にも及ぶ壮大な規模の城であった。

吉田城址の遺構は、おもに豊橋公園の西側一帯に良好に残っている。発掘調査や全国的な視点にもとづく再評価により、遺跡の持つ本質的な価値が明らかにされつつある。

本丸は豊川に面した北側一帯を総石垣にしており、急斜面を保護するとともに、豊川や西に位置する吉田大橋からの視覚的な効果が図られている。とくに、北西角の鉄櫓台石垣<sup>くろがねやぐら</sup>は、地元で産出されるチャートや石灰岩を用いた野面積みで、池田輝政が城主の時に築いた、当時としては全国屈指の12.7mの高さを持つ高石垣であった。また、本丸南多門周辺にも石垣を重厚に築いており、時期はわずかに下るが鉄櫓台に匹敵する高石垣が築かれている。このほか、本丸南・北多門の石垣は、深溝松平氏の本丸整備に際して名古屋城石切丁場から石材の花崗岩を調達しており、名古屋城石垣と共通する刻印が認められることなど、特筆される点が多い。

石垣以外に残存する遺構として堀や土塁がある。本丸の堀は幅18～20m、深さ約10mの

大規模なもので、二の丸や三の丸の堀も一部残存する。また市街地にあるにもかかわらず、二の丸や三の丸の土塁が良好に残っており、近世城郭の中では全国的に見ても稀有なものといえる。

このほか、豊橋公園の西にあたる豊川河畔には吉田城と豊川との深い結びつきを示す近世の水門跡が現存する。水門は、豊川から城内へ物資を直接搬入するため、川に面して設けられたものであり、上に米蔵が設けられた埋門で、両袖の石垣が現存している。また、城域の東端には近世の総堀の土塁が120mほど残されており、後世の削平を最も受けやすい遺構であるにもかかわらず現存している。以上の遺構は、全国的に見ても類例や残存例が少なく、貴重である。

さらに吉田城址は、近代に歩兵第十八聯隊<sup>れんたい</sup>など陸軍の用地に利用された。現在も営門跡<sup>しょうしや</sup>や警戒哨舎、軍人記念碑の神武天皇像など、軍隊時代の遺構が散見され、軍都として栄えた往時をうかがうことができる。近代に吉田城址が陸軍用地となったことで、遺構が再利用され現存するきっかけとなった事実は、吉田城址の保存のうえで無視できない。

吉田城は、戦国時代から近世を通じて東三河地方における政治・経済・軍事の拠点であり続けた。また吉田城が設けられたこの地は、物流の大動脈であった豊川と中・近世の東海道が交差する交通の要所であり、吉田湊を有する湊町でもあった。吉田城址は、長期間にわたって東三河地方の中心的な役割を担い続けた、本市の歴史を象徴する重要遺跡であり、現存する遺構は価値が高い。そのため、遺構が良好に残る範囲を対象に、市の文化財に指定して長く保存すべきものである。



吉田城址 主要部



復興鉄櫓と石垣



水門跡



総堀の土塁